

リニア推進特別委員会の活動について(案)

平成 27 年 6 月 24 日

リニア推進特別委員会
委員長 井坪 隆

はじめに

リニア推進特別委員会は、リニアの開通を見据えた 12 年間に亘る超長期間を俯瞰し、リニア効果を活かすための取組みを明らかにして、開業に向けた準備が遅滞なく進められるよう、関連する諸問題を審査する役割が求められる。

今般「リニア駅周辺整備基本構想」が策定され、中心線測量、アクセス道路整備などリニア関連事業が実務段階に入った今後、目指すリニア駅周辺の姿の実現に向けた取組みが具体的に推進されることとなった。

これまでに飯田市では「リニア将来ビジョン」「リニア推進ロードマップ」をはじめ、関連計画（長野県リニア活用基本構想、第 5 次基本構想後期基本計画、飯田市土地利用基本方針）が示す地域像の実現を目指して、リニアに関する取組みを進めてきている。

リニア推進特別委員会として、リニア関連事業の進捗によって、今後、市民生活への影響と関わりが現実として深まるなか、地域の抱える課題などに関心を持つと同時に、未来のまちをどう描くかについて、従前に増して踏み込んだ活動が求められる。

1) 特別委員会のあゆみ

平成 22 年 3 月、リニア中央新幹線の推進対策に関する諸課題の研究調査を行うため、所期の目的が達成されるまでの間、関連する諸問題を付託し、審査するために、委員 9 名をもって「リニア推進対策特別委員会」を設置。

平成 25 年 5 月、同趣旨にて「リニア推進特別委員会」を設置。(実質的には、特別委員会の名称変更)

この間、平成 23 年 5 月にルートが正式決定され、平成 25 年 9 月に、駅の設置が飯田市上郷地区に決定された。

特別委員会では主に、C ルートの実現、現駅併設、リニアロードマップの推進、JR 東海による環境影響評価への対応（議会としての意見書を提出）、駅周辺整備、ルート上の環境影響などについて、協議、調査、提言を行ってきた。

2) 特別委員会を取り巻く現状

平成 27 年 5 月に駅周辺整備基本構想案がまとめられたことから、今後、基本計画、整備計画に関する調査、研究にあたることとなる。また、リニア推進ロードマップの取組みについて、より具体的に検討を進めることが求められる。

もとより、今後の事業の推進にあたっては、県、JR 東海に対して、本市として、市民と共にいかに対応していくかも重要な局面を迎える。

3) 特別委員会の今後の活動の在り方について

①リニア推進ロードマップの実現に向けての調査、研究

リニア推進ロードマップでは「3本の柱」「三つくり」をもって地域づくりを行うとされていることから、総合計画との連携を図りながらも、リニア効果を最大限に活かし、より輝きを持たせるまちとするために、リニア推進ロードマップの実現に向けての調査、研究をする必要があるのではないかと。

(案) →【リニア推進ロードマップの、主に「3本柱」の実現に向けての調査研究】

例：定例会毎に、理事者側の選択した項目に関する報告を受ける

②状況、情報の収集を図る

リニア駅周辺が目指す姿（基本理念）である「信州・伊那谷の個性で世界を惹きつけ、世界へ発信する玄関口」の実現に向けて先進事例等の研究を行うとともに、リニアによる地域づくりへの市民が描く想像力や創造力、課題等について、地域の声を聞く姿勢、機会が必要ではないかと。

(案) →【先進地、事例の視察、及び現場の調査研究】

例：リニア沿線駅、開業新幹線駅等の視察

：ルート沿線の現状視察

【関係機関等との意見交換の場の設定】

例：リニア関連団体、関係組織等との懇談会の開催

：「議会報告会」における意見、要望への対応

③議会内での情報共有

従前に増して、議会として特別委員会における情報の共有を図る必要があるのではないかと。

(案) →【特別委員会の協議事項等に関して、積極的に議員向けに発信】

例：閉会中の継続審査等における必要事項を情報発信

以上

<当日配布資料>

- ・リニア推進ロードマップ(詳細編)